

平成30年 8月20日

守谷市議会議長 殿

委員長 青木公達印  
報告者 青木公達印

## つくばみらい市立 給食センター 視察・研修報告

標記の件について、次のとおり 実施 ・ 参加 したので報告します。

視察・研修日	平成30年 8月 2日 (木)
視察・研修場所	つくばみらい市 学校給食センター
視察・研修項目	つくばみらい市立学校給食センターについて
参加者	守谷市側 青木公達委員長，長谷川信市副委員長，渡辺大士委員 浅川利夫委員，高橋典久委員，市川和代委員，佐藤弘子委員 梅木伸治議長，給食センター 坂所長，新島係長， 議会事務局 山崎係長
	相手側 古舘副議長，福田教育長，吉田教育部長， 学校教育課 飯泉課長，直井補佐，坂本主査 学校給食センター 斉藤所長，井砂教諭，井波教諭，
視察・研修目的	つくばみらい市立学校給食センターについて ・新設に至った経緯について ・構想から新施設の稼働までのスケジュールについて ・施設内容について ・アレルギーの対応について
視察・研修内容	※別紙参照
視察・研修総括 (今後の取組み等)	守谷市の学校給食センターの現在の施設も昭和 59 年に竣工されてから 30 年以上経過している。施設の老朽化や児童・生徒の増加が見込まれる。つくばみらい市も同じような経緯で新給食センターを建設しているので参考にし，検討したい。

## 視察・研修内容

### 【1】 新設に至った経緯

つくばみらい市には学校給食センターは、①伊奈学校給食センターと②谷和原学校給食センターの2ヶ所あり、合わせて1日当たり約4,500食の調理能力があった。両給食センターは竣工から20年以上経過しており、施設の老朽化が深刻で、調理場が狭く作業効率を低下させる要因となっていた。さらに平成23年の東日本大震災により両給食センターの建物・設備は大きな被害を受けた。

また、両給食センターの改修費は平成22年度から平成26年度までの5か年で約4,300万円が掛かっており、改修費用が膨れ上がっていた。

児童・生徒数の将来推計値を基にすると、供給食数の限界(4,500食)は平成30年度に超過する予測となっており、平成34年に必要食数のピークとなりその後は減少していくと予測した。

上記のような課題を踏まえ、必要食数の急増に対応し、かつ安全・安心な学校給食の提供を続けていくために、学校給食調理施設の早急な改善を図るものとした。

### 【2】 構想から新施設の稼働までのスケジュール

平成30年度に供給能力を上回る食数提供の必要性が判明し、かなり緊要性の高い事業となった。そのため、従来型の地方公共団体における事業手順で行っていたスケジュール的に間に合わないため、リース方式で「デザインビルド方式(設計と施工の一括発注)」を導入することにした。「要求水準書」に基づき、高い専門性と実績を有し、かつ新給食センターが効率的・効果的に運営できるような提案を行う、優れた事業者を選定するため、プロポーザル方式による事業者選定を行い、決定、契約した。

### 【3】 施設内容

- ・敷地面積 : 8,229.27 m<sup>2</sup>
- ・延床面積 : 3,198.95 m<sup>2</sup>
- ・建物構造 : 鉄骨造2階建
- ・調理方式 : ドライ方式
- ・調理能力 : 6,500食/日

### 【4】 アレルギーの対応

食物アレルギーのある児童・生徒用のアレルギー対応食は他の調理場と分けられた特別食調理・盛り付け室にて、専任スタッフが調理と盛り付けを担当している。また発送は安心・安全を考えて、通常食と別容器に入れて各学校に届けている。